

2018年5月21日

キヤノンメディカルシステムズ, 超音波診断装置で平成30年度全国 発明表彰を受賞

キヤノンメディカルシステムズ(株)は公益社団法人発明協会が主催する平成30年度全国発明表彰において、「2つの基本波の差周波と第2高調波を利用する超音波診断装置の発明」で「文部科学大臣賞」および「発明実施功績賞」を受賞した。

超音波診断装置は超音波を体表に当てて、組織からの反射を受信し、リアルタイムに映像化する装置。体の負担が少なく、腹部、循環器、表在、血管、産婦人科、整形外科など、幅広い臨床領域で使用されており、技術の進歩とともにさらなる臨床応用が期待されている。

本発明は、従来は映像化できなかった深部の組織を高解像度で映像化する技術で、超音波診断装置の基本性能を飛躍的に向上させることができた。本発明により病変の早期発見が可能となると共に、胃や腸などの消化管や筋肉・腱の高解像度の映像化により、新たな診断を確立した。キヤノン製超音波診断装置のラインアップには「D-THI (Differential Tissue Harmonic Imaging)」として本技術を搭載している。さらに、本技術は多くの他社の超音波装置にも搭載され、日常診療に不可欠な基本性能となっており、より確実な診断をサポートしている。

同社はこれからも尊い命に貢献するため最新の医療システムを提供していく。

以上